

## 日本のゴルフ場における 喫煙環境と受動喫煙対策の現状と課題

北 徹 朗  
高 橋 宗 良  
橋 口 剛 夫  
吉 原 紳

### 1. はじめに

喫煙は、肺や心臓疾患、脳血管疾患、悪性新生物を誘発する大きな原因であることや、喫煙者のみならず非喫煙者も健康被害を受ける可能性があることは既に広く知られている。

世界保健機関（WHO）では、1995年にたばこ規制に関する施策の必要性が議論され、1998年には条約の作成が提案された。その後、政府間交渉などの過程を経て、2003年5月21日の総会で「たばこの規制に関する世界保健機関枠組条約」（WHO Framework Convention on Tobacco Control：略称 WHO FCTC）を全会一致で採択した。FCTCに日本が参加を表明したのは2004年6月だったが「WHO加盟国の40カ国以上が参加してからの発効」という取決めになって、実際に効力が発生したのは、2005年2月27日からだった。FCTCには、2013年9月現在168カ国が批准し、5回の締約国会議を経て、受動喫煙防止・公衆衛生政策のたばこ産業からの保護・たばこの警告表示・たばこの広告と宣伝の禁止・禁煙治療などのガイドライン・たばこ製品の不法取引廃絶に関する議定書などが定められている<sup>1)</sup>。

日本においては、2009年3月に、神奈川県にお

いて日本初の「受動喫煙防止条例」が成立（2010年4月施行）し、2013年4月には神奈川県に続いて兵庫県においても同条例が施行された。こうした情勢もあり、日本人の成人喫煙率は近年一貫して減少傾向にあり、日本におけるたばこの販売本数も減少し続けている<sup>2)</sup>。

ゴルフはその殆どが歩く運動（ボールを打っている時間は2～3分）であることから、「健康づくり運動」として推奨されることが多い<sup>3)</sup>。また、仲間とのコミュニケーションも密であることから、生涯スポーツとしても魅力が高いと言える。しかし、その一方で、プレー中における死亡事故は国内外を問わず多く発生している。この背景としては、ゴルフはプレー中やプレー間の喫煙や飲酒が概ね許容されている稀有なスポーツであることも考えられる。すなわち、心臓疾患を主因としてプレー中に死亡事故を引き起こすことが示唆されている<sup>4)5)6)</sup>。

著者らは過去にゴルフコースラウンド中の心臓自律神経活動の変動<sup>7)</sup>や、ラウンド中の喫煙が心臓自律神経活動に及ぼす影響<sup>8)</sup>について検討した。さらに、国内外のゴルフ場における死亡事故の実態を調査し、飲酒や喫煙を伴うゴルフの危険性を示してきた。それと同時に、著者らは2012年よりゴルフ場における喫煙環境と受動喫煙対策に

について調査を続けてきた。今回、全国のゴルフ場における喫煙環境および禁煙対策の実態についてのデータが揃ったので報告する。

## 2. 方 法

全国のゴルフ場1878コースの支配人に質問紙を郵送した。調査期間は2013年5月1日～6月30日であり、有効回収率は20.9%（有効回収数393）であった。

調査項目は北田ら<sup>9)10)</sup>が実施したサービス産業等に対する調査項目を参考にした。

## 3. 結果および考察

『コース内・ラウンド中にタバコを吸える場所』として、「各ティーグラウンド」（第1打を打つ場所）が殆どのゴルフ場（89.6%）で挙げられた（図1）。

『クラブハウス内の喫煙環境』として、「「屋内」に喫煙場所を設置」が最も多く（58.1%）、次いで「「屋外」に喫煙場所を設置」（48.7%）、「全面禁煙」（18.3%）、「全面喫煙可」（14.5%）の順に多く挙げられ、「喫煙ルーム（煙が拡散しない）を設置」への回答率は9.9%と少なかった（図2）。

『レストラン内の喫煙環境』については、全面禁煙（40.6%）への回答が最も多かった（図3）。

『ゴルフ場としてタバコ対策の基本方針を決めているか』については、「決めている」ゴルフ場は27.4%、「検討中」が17.0%であった。半数のゴ

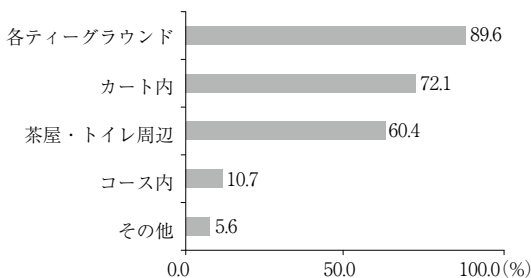


図1 ラウンド中にタバコを吸える場所

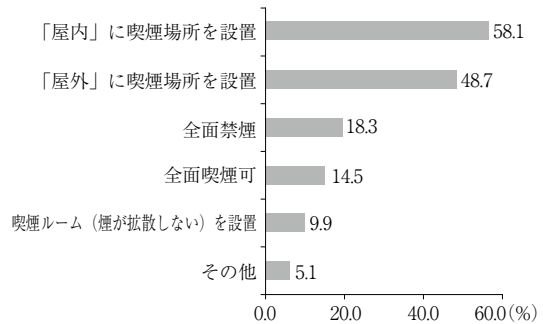


図2 クラブハウス内の喫煙環境

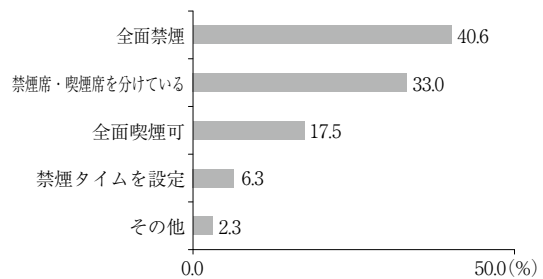


図3 レストラン内の喫煙環境

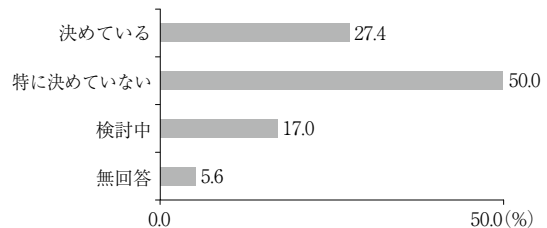


図4 ゴルフ場としてタバコ対策の基本方針を決めているか

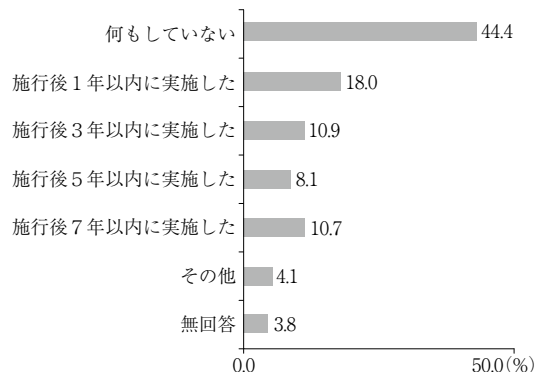


図5 健康増進法施行（2003年5月）後何らかの受動喫煙対策を実施したか

ルフ場支配人は「決めていない」(50.0%)と回答した(図4)。

『健康増進法施行(2003年5月)後何らかの受動喫煙対策を実施したか』については、約半数が「何もしていない」(44.4%)と回答した(図5)。

『ゴルフ場内の喫煙環境規制はビジネスに影響すると思うか』については、約40%の支配人は「タバコ規制はビジネスに影響しない」と考えていた(図6)。

『ゴルフ場での「受動喫煙」は全ての人(顧客・従業員・出入り業者等)の健康にとって有害であると思うか』を尋ねたところ、68.8%の支配人は「そう思う」(強くそう思う, そう思う, の合計)と回答した(図7)。

また、『ゴルフ場を「完全禁煙」することは従業員の健康のために大切であると思うか』についても、ほぼ同程度の回答率であった(図8)。

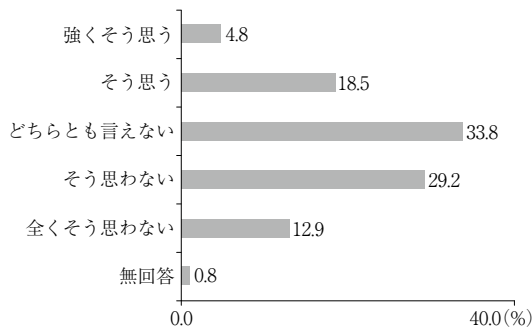


図6 ゴルフ場内の喫煙環境規制はビジネスに影響すると思うか

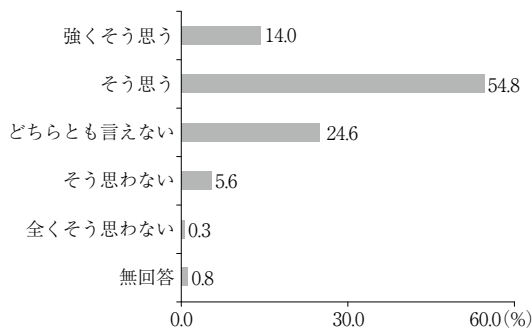


図7 ゴルフ場での「受動喫煙」は全ての人(顧客・従業員・出入り業者等)の健康にとって有害であると思うか

『今後の禁煙対策に必要な法規制のレベル』については、「各業界団体による自主規制」への回答率が最も高く(42.9%), 次いで、「諸外国の様な全国レベルの禁煙法」(34.5%), 「神奈川県のような都道府県による条例」(14.7%)の順に多く挙げられ、事業者での取決めや国を挙げてのルール作りの必要性が示唆された(図9)。

『今後のゴルフ場が喫煙対策を進める上で必要な要素』としては、「受動喫煙を禁止する条例や

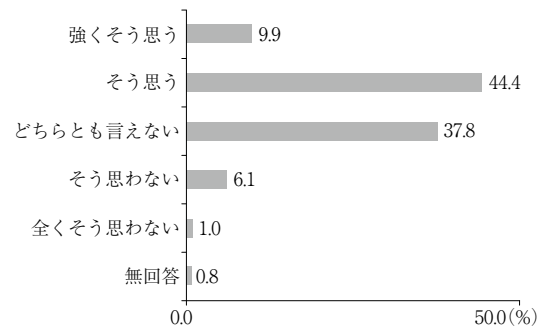


図8 ゴルフ場を「完全禁煙」することは従業員の健康のために大切であると思うか

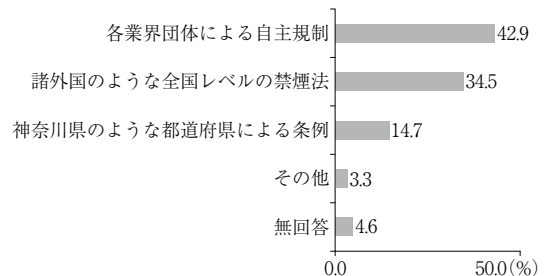


図9 今後の禁煙対策に必要な法規制のレベル

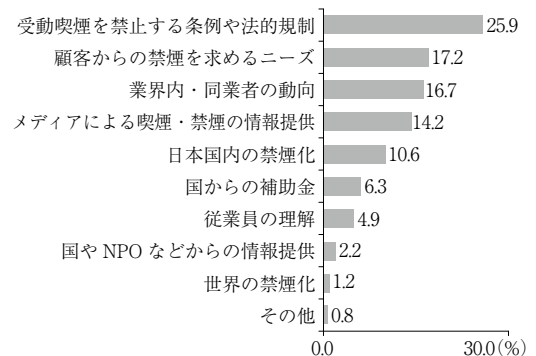


図10 今後のゴルフ場が喫煙対策を進める上で必要な要素

法的規制」(25.9%)が最も多く、次いで「顧客からの禁煙を求めるニーズ」(17.2%),「業界内・同業者の動向」(16.7%),「メディアによる喫煙・禁煙の情報提供」(14.2%),「日本国内の禁煙化」(10.6%),「国からの補助金」(6.3%),「従業員の理解」(4.9%),「国やNPOなどからの情報提供」(2.2%),「世界の禁煙化」(1.2%),「その他」(0.8%)であった(図10)。

## ま と め

今回の調査結果からゴルフ場における喫煙環境と対策の実施状況に関する基礎資料が得られた。

主な結果として、

- ・殆どのゴルフ場でラウンド中に喫煙可能である。
- ・約半数のゴルフ場で喫煙対策の基本方針が決められていない。
- ・喫煙規制がビジネスに悪影響を及ぼすと考えるのは23.3%に過ぎない。
- ・受動喫煙を禁止する条例や法的規制が望まれている。

ことなどが明らかとなった。過去に著者らが報告した、九州<sup>11)</sup>や首都圏<sup>12)</sup>のゴルフ場に対する分析結果と比較しても、地域差などは認められなかった。

今回の調査では、喫煙に関する法規制のレベルとして「諸外国のような全国レベルの禁煙法」(34.5%)への回答率が最も高かった。北田らの報告<sup>9)</sup>でも同様の傾向であり、サービス産業全体において喫煙を抑制する対策が求められているのかもしれない。

2016年のリオデジャネイロオリンピックからゴルフは正式種目になる。2020年には東京でのオリンピック開催が決定した。招致活動当時から、受動喫煙防止法が未整備の日本の遅れが指摘されていた。実際、近年のオリンピック開催都市では、多くの場合招致活動時には受動喫煙防止法が制定されており<sup>13)</sup>、日本におけるゴルフ場およびゴルフ場においても、オリンピック正式種目に恥じ

ないスタイルを示すことが早急に求められている。  
付記：本研究の実施にあたり、2013年度日本禁煙学会調査研究事業助成の一部が充てられた。

## 参考文献・参考資料

- 1) 外務省ウェブサイト：たばこの規制に関する世界保健機関枠組条約 (<http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/who/fctc.html>) 2015年9月23日確認
- 2) 松沢成文 (2013) JT, 財務省, たばこ利権 日本最後の巨大利権の闇, ワニブックス, pp. 18-34
- 3) 北徹朗 (2011) 8. ゴルフ, メタボリックシンドロームに効果的な運動・スポーツ, ナッブ
- 4) Kross BC, Burmeister LF, Ogilvie LK, et al (1996) Proportionate mortality study of golf course superintendents, Am J Ind Med. 29, pp. 501-506
- 5) 吉原紳・北徹朗ら (2011) ゴルフの安全対策—ゴルフ場へのアンケート調査による事故(傷害・障害)の実態と予防対策についての検討, 臨床スポーツ医学28, pp. 92-104
- 6) 北徹朗・吉原紳ほか (2010) 北米のゴルフ場における事故発生状況とリスクマネジメントに関する調査, 臨床スポーツ医学 27, pp. 1396-1399
- 7) 高橋宗良・北徹朗 (2011) ゴルフ・ラウンド中の心拍変動について, ゴルフの科学24, pp. 62-63
- 8) 高橋宗良・北徹朗ほか (2013) ゴルフ・ラウンド中の喫煙が心臓自律神経活動に及ぼす影響, ゴルフの科学26, pp. 48-49
- 9) 北田雅子・秦温信ほか (2010) 日本国内の宿泊産業における受動喫煙対策の現状と課題, 禁煙会誌 2010; 5, pp. 33-43
- 10) 北田雅子・秦温信ほか (2012) 日本国内の主要外食チェーン企業における喫煙対策の現状と課題, 禁煙会誌2012; 7, pp. 8-16
- 11) Kita T, Takahashi M, Hashiguchi T, Yoshihara S (2013) Current Situation of Smoking Environment and Measure against Passive Smoking in Golf Course in the Kyushu District, The 10th APACT Conference Program and Abstract Book, p. 206
- 12) 北徹朗・高橋宗良・橋口剛夫・吉原紳 (2014) 首都圏近郊ゴルフ場における喫煙環境と受動喫煙対策, 日本健康医療学会第7回総会・学術総会プログラム抄録集, p. 109
- 13) 日本禁煙学会ウェブサイト：オリンピックと禁煙 (<http://www.nosmoke55.jp/action/olympic.html>)